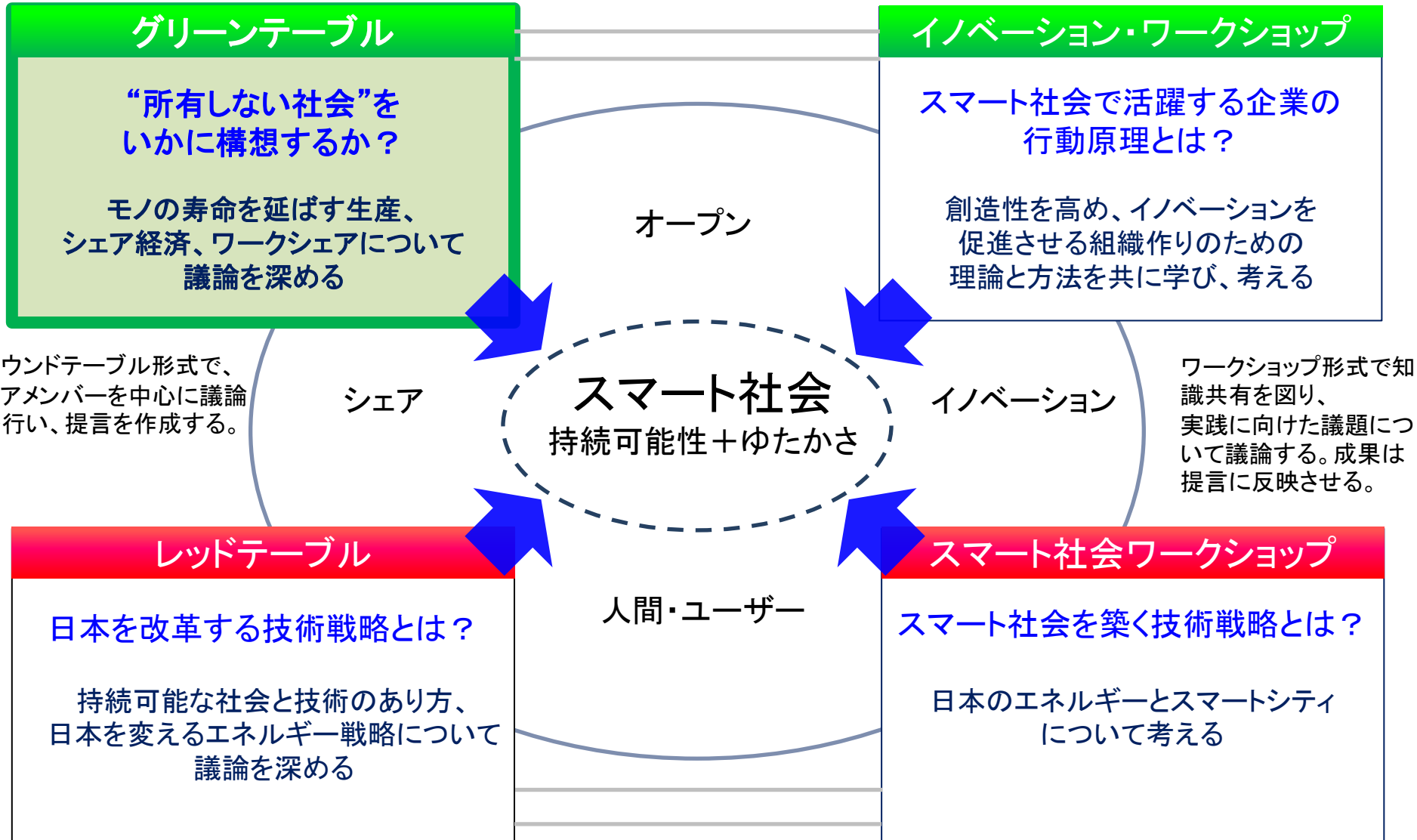


# シェア経済を合理的に 説明するために

国際大学GLOCOM 主任研究員  
庄司昌彦 (Masahiko SHOJI)  
shoji@glocom.ac.jp @mshouji

# FTMフォーラムの4つの活動:「日本のスマート社会を構想する」

## 「スマート社会の編成原理」



# Green Table 2012



**川崎 裕一**  
株式会社  
kamado代表  
取締役社長



**庄司 昌彦**  
GLOCOM  
講師・  
主任研究員



**玉置沙由里**  
MG(x)サロン  
主催



**西田 亮介**  
立命館大学  
大学院 先端  
総合学術研  
究科 特別招  
聘准教授



**藤代 裕之**  
NTTレゾナント  
株式会社 新  
規ビジネス開  
発担当



**森永真弓**  
株式会社博  
報堂DYメディ  
アパートナー  
ズメディア環  
境研究所 上  
席研究員

「スマート社会」を、今後社会の中心を担う世代で論じる。

- エネルギーや資源の利用、そのガバナンスを「自立・分散・協調」で行う社会を支える編成原理、具体的な制度、ビジネス、アクションを構想し、提言と実践を行う。

“所有しない社会”とスマート社会の構想

# 前回のまとめ

# “所有しない社会”とスマート社会の構想

(庄司昌彦:2012年8月28日)

- 情報社会論の先駆的議論と現在のスマート社会論の近さ
- 既成の価値観にとらわれず共同体志向のヒッピーやハッカーの文化・伝統は、現在の情報社会論や近年の社会運動にも影響
- 企業の脱「所有」化
  - サービスのオープン化・低価格化により企業の小規模化が可能に
  - 企業が人材、不動産などを「持たなく」なった

使えれば良い、新商品への乗換えコストが下がる、物の所有は場所をとる...等  
無駄を省く等の合理的思考から「脱・所有」を目指すのではないか

- 脱「所有」のあり方とその価値(最近の2つの考え方)
  - 「Public-ness(パブリックネス)」 by ジェフ・ジャービス
    - 情報・思考・行動のシェアで人を集め、アイデア、大義、ニーズが集まることで「パブリック」が形成。コラボレーションプロセスのオープン化から新しい倫理が生まれる可能性
  - 「プライベートパブリック」 by 坂口恭平
    - プライベートな物のパブリックへの提供に価値。私有概念を多様な観点から捉え直す

持たないことの合理性や、持たないメリットが現状を上回るもの、最適な所有の仕方が現状と異なるものを具体的に明らかにすることを提案

- シェア文化と日本
  - いつまでも論じられ続けるのは日本が拒否してきたためでは。なぜ受容されないのか
  - シェアは江戸時代の日本に存在。外来への適応より日本のシェア文化史を振り返るべき
- 濃厚ではないシェア
  - 既存共同体に根付いた濃厚なシェアではなく友人間で交わされる濃くもドライでもない中間的な新しいシェアが出現
  - 友人ネットワークでのシェアも数年経つとムラ化し負担に。そこそドライなシェア文化を企業がサポートできないか
- 大企業への一極集中に基づいた所有形態の多様化
  - 豊富なモノが情報とつながり自己所有せずいつでも使えることが新産業の核では
  - 脱所有とはいえ権利放棄ではない。権利が企業の都合で放棄される危険性。ビッグブラザーの危険性や絶対に譲れないものの想定が必要
  - 一部大企業はますます所有。一極集中の危険性と、(非所有も含む)選択肢の多様化などのメリットが同居。メリットを引出すための議論、所有と分散の中間の模索が必要
- 今後の議論の論点
  - 「何を捨てる」ことでより快適になるかという消費者論と、所有する企業の戦略論
  - 所有する/しないという対立概念そのものが曖昧に
  - シェアのビジネス利用など、既存の経済成長論とは異なる価値の模索に意義

# シェア経済を合理的に 説明するために

# 今回の議論

- 前回は『脱・所有』という現象を提示し論点化
  - 一過性ではない中長期的な変化(過去に類似があった可能性)
  - 世界的な傾向であり、日本でも起きている傾向。共通点と差異はある
  - その現状・動向をどう理解し、社会やビジネスをより望ましい方向へ適応させていきたい
- 今回はその現象として顕著である「シェア」に注目。合理的に説明できるように分解し理解する
  - これまでの類似の議論を参照し現在の現象への適用、異同検討
  - 具体的な事例としてLivlisおよび提供者としての川崎さんについての理解を深める
- 「持続可能性と豊かさ」を両立するうえで、「シェア」経済が重要な要素であり、その目標にどう貢献するのかを明らかにしていきたい
  - 新たなビジネス・イノベーションや社会制度改革につなげたい



# シェア経済とは（今日の前提）

- 豊富なモノの融通・活用を高度化する情報サービスが柱となる
  - どこに、どのようなものが、どれだけあるのか、ということと、人のニーズとのマッチングが高度化し、モノが複数の人によってこれまで以上に活用される
- 個人向けサービスを想定※（今回法人は主要テーマにしない）
  1. Livlis（ファッション、パッケージ型コンテンツ、家庭用品）
  2. ルームシェア、シェアハウス
  3. カーシェア
  4. （ソーシャルレンディング）

# ルームシェア／シェアハウス

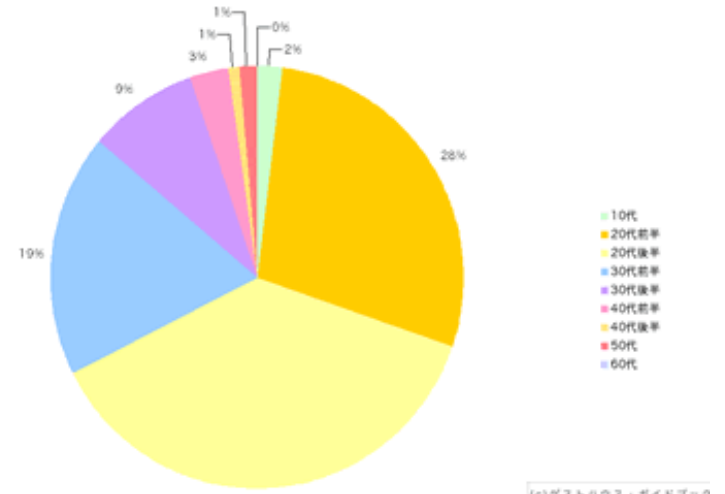
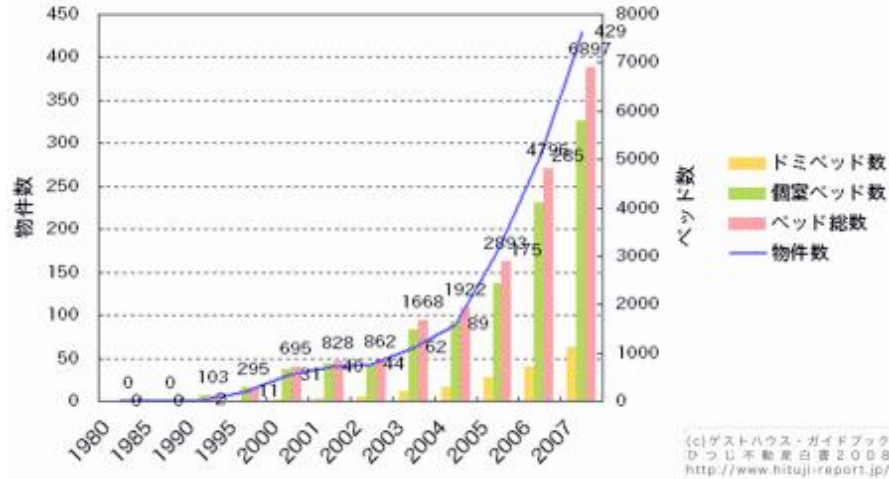
- 自主運営型のシェアは暗数であり把握が困難
- メディアで取り上げられるのは「事業者介在型」
- 親元で同居するか、無理して一人暮らしをするか以外の選択肢としてのシェア
- 現代的共同生活はプライバシーと共同性の間のバランスの模索に特徴
  - 個室を複数人でシェアするルームシェアではなく、リビングやキッチンを共同維持するフラットシェアタイプが優勢
  - 買い出し・掃除当番等は最低限
  - ほどほどに他人と交流できる
  - 管理人がコモンスペースにコミット。賃貸物件であり民俗社会のシェアとは異なる
  - 欧米的な個人主義が浸透した後に利他的な精神が加わる形で、できるかぎり個を犯さずに共有・協働していこうということ

参照： 久保田裕之「シェアハウジングが拓く共生の多様なあり方」『環境会議』2011年秋号  
菅豊「シェアする暮らしは協治社会への第一歩」『環境会議』2011年秋号

# ルームシェア／シェアハウス

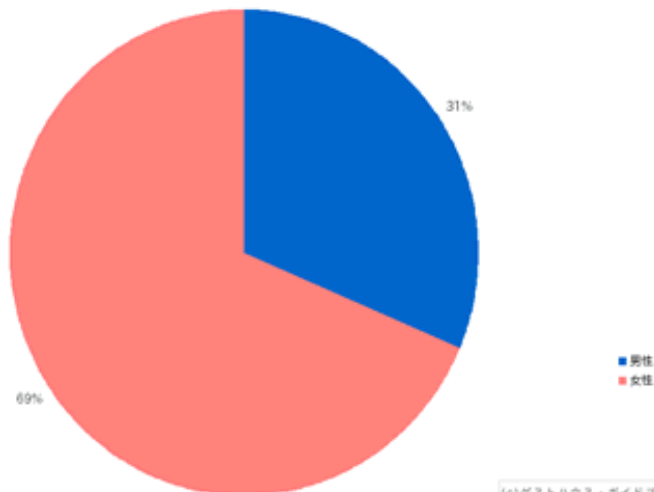
物件数・ベッド数推移（東京・神奈川・埼玉・千葉合計）

年齢構成（問合せデータより）



出典：シェア住居白書（ひつじ不動産）  
ゲストハウス入居者の男女比（問合せデータより）

出典：シェア住居白書（ひつじ不動産）



出典：シェア住居白書（ひつじ不動産）

UR 賃貸住宅でも できる! **ルームシェア**

ちょっと賢沢に広いお部屋。 気心知れた友人となら安心。

UR賃貸住宅4つのメリット  
礼金不要、手続料不要、更新料不要、保証人不要

友達とシェアするとこんなにお得です!

物件を探そう!

ハウスシェアリング (UR賃貸住宅では) = ルームシェア (一般的には)

UR賃貸住宅では、友達同士でもひとつの物件にお住まいいただくことができます。UR賃貸住宅のルームシェアはハウスシェアリングと言えます。

友達とルームシェアもできる!

# カーシェア

## 事例

- Zipcar
- タイムズプラス(2,833ヶ所、3,960台)
- オリックスカーシェア(1,025ヶ所、1641台)
- カレコ(三井物産系)(438ヶ所、511台)
- トヨタも本格参入(ラクモ)全国1200箇所で(2012年7月)

### ・オリックスレンタカー (全国料金版)

レンタルタイプ	6時間	12時間	24時間	追加1日	追加1時間
料金 (税抜料金)	5250円 (5000円)	5250円 (5000円)	6825円 (6500円)	5775円 (5500円)	1050円 (1000円)

※Sクラス (コンパクトタイプ) フィット・デミオ・マーチ・ヴィッツ 他)

※任意加入 免責補償料: 1050円/24H (税込)

### ・オリックスカーシェア

プラン		Aプラン	Bプラン	学生プラン		
月額基本料 (1口あたり)		2000円	1000円	5時間無料		
利用料金	時間料金 (15分あたり)	スタンダードクラス	200円	300円	Aプランと同額	
		EVクラス	東京・大阪	150円		225円
			沖縄	200円		300円
距離料金 (1kmあたり)	距離料金 (1kmあたり)	スタンダードクラス	15円			
		EVクラス	東京・大阪	30円		
			沖縄	15円		

※利用時間に応じて、自動的に以下のバック料金が適用されます。

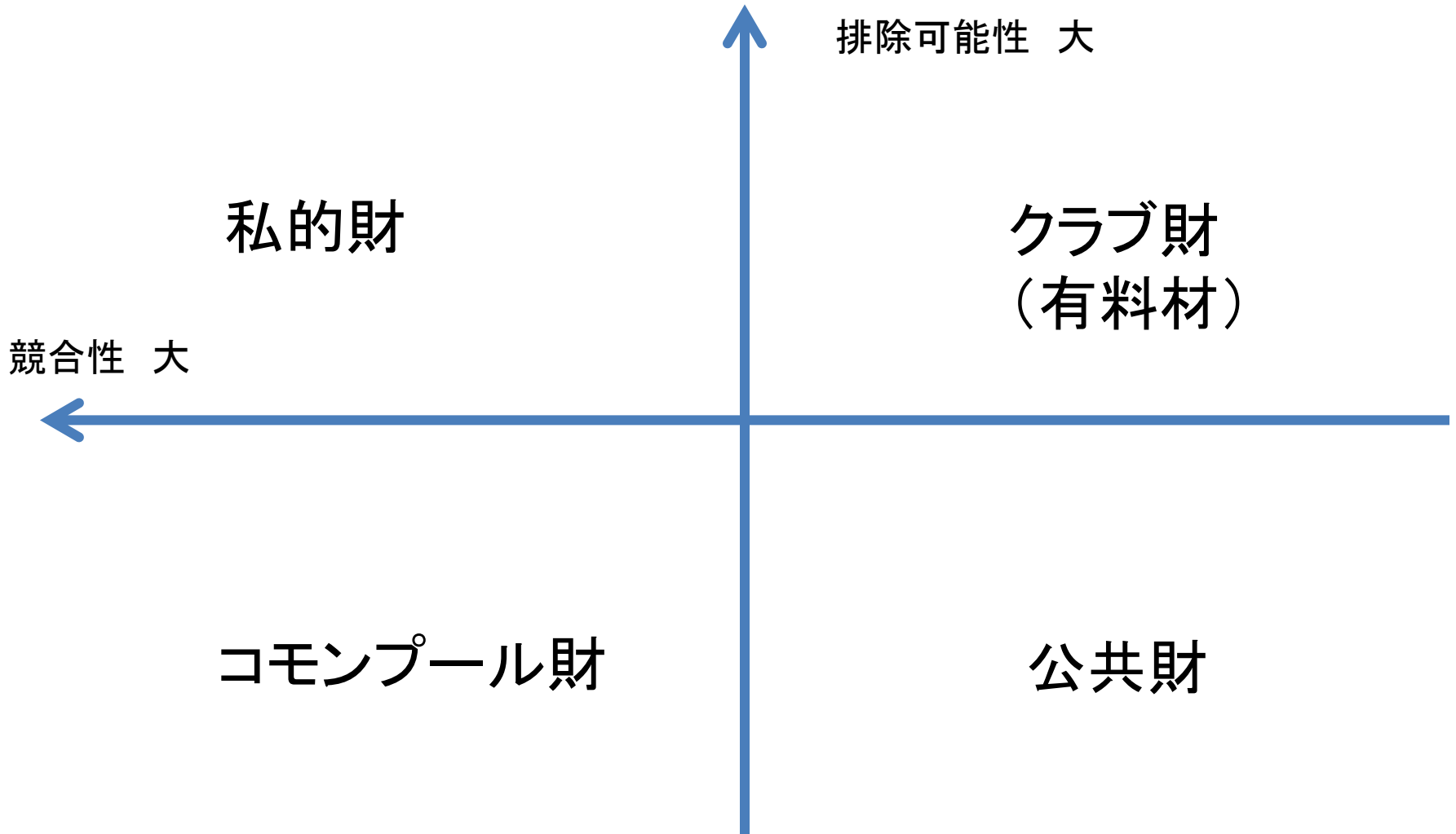
参照: <http://www.car-share.net/compare.html>  
<http://www.matomedia.jp/carsharing/>

# これまでの関連する議論

# レイチェル・ボッツマン／ルー・ロジャース 『シェア』

- 「コラボ消費」の三タイプ
  - プロダクト＝サービス・システム (PSS)
    - 所有より利用。
    - カーシェア、コインランドリー、修理サービス
  - 再分配市場
    - ソーシャルネットワークなどを通して必要とされていない場所から必要とされるところ、人に配りなおす
    - 無料、ポイント交換、現金購入など形態は様々
  - コラボ的ライフスタイル
    - 時間や空間、技術やお金など目に見えにくいものを共有する
    - コワーキング、地域通貨、スキルのシェア、ソーシャルレンディング
- コラボ消費の4大原則
  - クリティカルマスの存在
  - 余剰キャパシティの活用
  - 共有資源(コモンズ)の尊重
  - 多謝との信頼

# 公共財・私的財



# 公共財・私的財

- コモンプール財
  - 排除にコストが掛かるため排除可能性が低い。
  - 多くの人が使うと使えない人が出るので競合性が高い。
- シェアの対象
  - コモンプール財ではなく私的財ではないか
    - ルームシェアは、課金で排除可能性が高く、すぐ一杯になるので競合性も高い
    - カーシェアは、排除可能性が高く、競合性は高い
    - Livlisの取引商品は、排除可能性が高く、競合性が高い
- シェアをするためのネット上の場の運営は、私的財
- シェアをするためのネット上の場の利用は、排除可能性高、競合性小で公共財？電気ガス水道事業等に類似



# コモンズ（共有地）

## • コモンズ（共有地）の悲劇

- 誰でも自由に利用できる（オープンアクセス）状態にある共有資源（出入り自由な放牧場や漁場など）が、管理がうまくいかないために、過剰に摂取され資源の劣化が起ること。
- ギャレット・ハーディン（アメリカ、1915～）の著書「共有地の悲劇」によって提唱され、反共産主義への理論的根拠ともされた。
- 例えば、共同牧草地において、個々の農家はより多くの利益を求めている。そのため、他の農家より一頭でも多くの家畜を放牧することをお互いにしてしまうため過剰放牧がおこり、すべての農家が結果的に共倒れしてしまうという。
- 日本の入会地では各種のタブーやアニミズム思想がコモンズの悲劇を防いだともいわれている。地球温暖化やオゾン層の破壊など地球環境問題も地球というグローバル・コモンズにおける共有地の悲劇であるとみなすことができる。

# エリノア・オストロム

## 共有資源のガバナンスに関する研究

- 「コモンズの悲劇」の解決には「国家による解決(管理)」か「市場による解決(分配)」しかないとの議論に対し、豊富な事例分析に基づき、第三の方法として共有資源に利害関係をもつ当事者が自主的に適切なルールを取り決めて保全管理をするという自主統治の可能性を提示
- 共有地の自治管理がうまく機能する条件

1. コモンズの境界が明らかであること
2. コモンズの利用と維持管理のルールが地域的条件と調和していること
3. 集団の決定に構成員が参加できること
4. ルール遵守についての監視がなされていること
5. 違反へのペナルティは段階を持ってなされること
6. 紛争解決のメカニズムが備わっていること
7. コモンズを組織する主体に権利が承認されていること
8. コモンズの組織が入れ子状になっていること

# 共産主義

- 生産手段とは(略)物を生産するための原料(＝労働対象)と工場・機械など(＝労働手段)のことです。いまの資本主義社会は、これをごく一部の人たちが占有し、もうけ本位に生産しており、これが社会のゆがみや環境破壊につながっています。
- (略)私たちがめざす次の段階が、資本主義を乗り越えた未来(社会主義・共産主義の社会)への前進です。ここでの変革の中心的な指標が「生産手段の社会化」です(略)
- (1)生産手段の社会化は、人間による人間の搾取を廃止し、全ての人間の生活を向上させ、社会から貧困をなくすとともに、労働時間の抜本的な短縮を可能にし、社会のすべての構成員の人間的発達を保障する土台をつくりだす
- (2)生産手段の社会化は、生産と経済の推進力を資本の利潤追求から社会および社会の構成員の物質的・精神的な生活の発展に移し、経済の計画的な運営によって、くりかえしの不況を取り除き、環境破壊や社会的格差の拡大などへの有効な規制を可能にする。
- (3)生産手段の社会化は、経済を利潤第一主義の狭い枠組みから解放することによって、人間社会を支える物質的生産力の新たな飛躍的発展の条件をつくりだす
- (略)新しい綱領では、(1)生産手段の社会化は多様な形態をとるが、どんな場合でも「生産者が主役」という原則を踏み外してはならないこと(ソ連では(略)官僚主役の経済体制(略))など、基本点を明記しています。

# ハーマン・デイリー

## 「持続可能な『発展』」論

- J.S.ミルの「定常状態」
  - 人口と物理的な資本ストックの増加がゼロであるのに、技術と倫理は継続的に改善していくような状態
  - 新たなパラダイムは、有限な世界、複雑な生態学的相互関係、熱力学の法則といった物質的パラメータを出発点とする。量的な成長ではなく、質的な発展によって調整を図るという点で新古典派経済学よりも古典派経済学に近い。
  - （「情報経済」という言葉が）生産物の質的改善を、つまり、生産物をより役立つもの、より寿命の長いもの、より修理しやすいもの、より見栄えのよいものにする（Hawken 1983）ことを意味する場合、われわれがすでに「発展」と呼んだものを得ることになる。質的改善を、より多くの情報を生産物の中に体化すること、と考えることは道理にかなったことだ。（p60）

シェアは経済成長には貢献するか？ 経済発展には貢献するか？